

糖尿病だより

2013年6月

No.27



～糖尿病性網膜症のおはなし～

ーいつ眼科を受診しましたか？ー

Aさん 「この前、眼科にいったとき『異常ないから大丈夫！』といわれたよ」
医師（看護師） 「この前っていつのことですか？」
Aさん 「えーっと。そうだな。2年ほど前かな？」

こんな会話・・・ときどきあります。

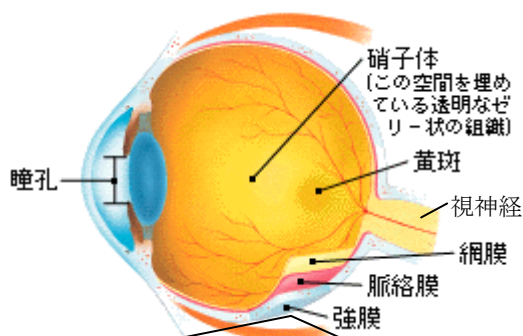
目はよく見えて、
どーも無いんだけど。



糖尿病性網膜症。この合併症は大変深刻なものです。なぜなら、失明の危険があるからです。成人になってからの視力低下の原因の第2位が糖尿病性網膜症です。

どうして網膜症になるのでしょうか？

網膜の周りには、極細の毛細血管が無数に張り巡らされています。その血管の中を血液が通って、網膜に栄養や酸素を運んでいきます



目の構造はよくカメラにたとえられます。フィルムにあたるころが網膜。フィルムがだめになれば写りません。（見えません）

高血糖が続くと、網膜の血管に変化が起こり、出血しやすくなります。

出血を繰り返すと、視力は低下していきます

大きな変化が起こる前に、レーザー治療をすることで進行を抑えることができます。



そうか！眼科の定期
検査が大切なんだ



視力が落ちていなくても、すでに眼底出血しているかもしれません

出血の部位によってはすぐに視力障害が出るわけではありません。だから眼科の定期受診は必要なのです。眼科受診していない方、診察が途切れている方は、すぐに眼科を受診して下さい。状態によって1ヶ月～6ヶ月の受診が必要です。



あなたの視力を守るには

血糖コントロール・・・網膜症の出現を少しでも遅らせることができます
定期的眼科受診・・・異常の早期発見・治療で視力低下を予防できます

糖尿病のコントロールには食事・運動などの生活習慣を変えることと、その継続が欠かせません。皆様の糖尿病療養に役立つ情報をこの「糖尿病だより」で発信していきます。

糖尿病療養指導スタッフ一同

国立病院機構 姫路医療センター

